漫才における「ツッコミ」の類型とその表現効果

安部 達雄

【キーワード】笑い　漫才　ボケ　ツッコミ　会話

1．はじめに

筆者は、表現主体が意図する「おかしみ」を言語的な側面においてどのように効果的に伝達しているのか、という過程に興味がある。笑いのテキストを扱って笑いの源泉がどこにあるのか、といった研究は現在まで少なからず存在するが、それら従来の研究には、「おかしみ」の対象(なににおかしみを感じたのか、というその対象)の構造的把握、という観点が欠けているように思われる[1]。「おかしみ」の対象の構造的把握と、さらにその構成要素の実現過程の検証なくして、「おかしみ」を感じる箇所が文脈的に作り上げられている過程を検証したことにはならない。

そこで本研究は、表現主体が意図した「おかしみ」が理解主体に伝達され、「笑い」という現象に結実することの多い漫才という話芸を扱って、従来の漫才用語である「フリ」「ボケ」「ツッコミ」という機能に注目し、「おかしみ」を伝達する過程を段階的に検証した。本稿では、なかでも実際に「おかしみ」を感じさせる「ボケ」の部分に後続する「ツッコミ」に関して、その類型と表現効果について考察した結果を示したい。

なお、本稿で扱う用例に関しては、実際に上演された漫才で、市販のものを用いる。これは知名度があり、比較的多くの観客に受け入れられ続けている、という基準を設けたことによる。文字化は手作業で行い、台本形式で筆記した。各用例の頭には演者と、必要な際は場面説明を付した。演者の発話には、発話者と発話番号を付し、用例は必要な部分のみを抜き出し引用した。

また、分析にあたっては表現主体寄りの観点から考察する。

2、前提

[1] たとえば中村平治(1996)では、笑いの技巧に「繰り返し」(他の発言をまねる、音をそろえる、ものまねをする)、「脱線」(期待をはずす、緊張をほぐす、攻撃をかわす、順序を逆にする、等) などを挙げているが、これらは笑いを惹起する言語のレトリカルな分析というよりは、笑いが起きた箇所限定での発話内行為・発話媒介行為の意味論的な分析であろう。こうした観点からの研究は、秋田(1972)から続く伝統的な研究といって差し支えなかろう。

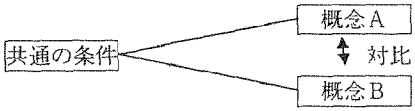
2.1 「おかしみ」とその構造図

いま、ここでは「笑い」という用語の指示範囲が広くかつ曖昧なため、正確を期するために「おかしみ」という言葉を使用しているが、考察にはいる前に、まず本稿で扱う「おかしみ」という用語の定義を明記しておく必要がある。

「おかしみ」とは、「笑い」という「現象」を喚起する要因のひとつであり、「おかしみの笑い」とは、中村明(2002)の言う「認識した対象を解釈する過程を経て生じる笑い」である、という立場をとる。

この際、おかしみの「対象」となるものは、従来から指摘されてきた通り、不適合なもの、あるいは「ズレ」(ショーペンハウエル(1972、原著 1966))、あるいは「ズレ解決」(ケストラー(1983、原著 1978))、とさまざまな説明はできるが、そのどれにも共通するのは、二つの概念の関係が問題にされているということである。したがって本稿では、おかしみの「対象」には、「異なる二つの概念の対比」の構造がある、という立場をとる。構造的に「異なる二つの概念の対比」を有し、その対比が「異質である」と理解主体が判断した場合、そこに「おかしみ」を感じる、というわけである。

したがって、ひとつの文脈に、まったく別の二つの概念が存立している構造、ここにおかしみを感じさせる可能性があるといえる。おかしみの構造を図[2]に示すと、以下のようになる。



これを「おかしみの構造図」(以下、「図」) と呼ぶことにする。例えば、

例1)【ダウンタウン①】

《誘拐犯＝松本＝が、被害者の親＝浜田＝に脅迫電話をかけている場面》

17 松本:(電話)「お前とこの息子な、オレとこで預かってんねん」

18 浜田:(電話)「え！」

19 松本:「預かってんねん！」

20 浜田:「いや！」

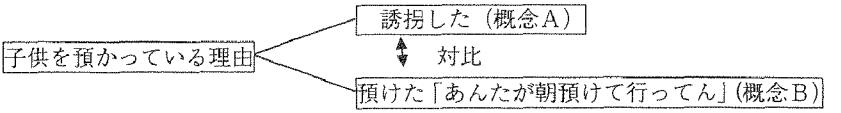
21 松本:「驚くことあらへん、あんたが朝預けてっ行ってん」(電話をきるしぐさ)

22 浜田:なにを言うてんねん！

---

2 小泉(1997)の図を参考とした。小泉(1997)におけるジョークの図式でいうところの「形」を「共通の条件」、「上位項」を「概念A」、「下位項」を「概念B」、「転移」を「対比」と呼称した。これは、必ずしも「上位」から「下位」への転移だけではないこと、また転移という動的な要素ではなく、対比そのものにおかしみの要因があると考えたことからである。また、共通の条件とは、関(2002)における転回軸とほぼ同義で、関(2002)は、二つの概念を「既成概念」と「獲得概念」と呼んでいる。

の例では、下線部においてはじめて「二つの概念の対比」がみてとれる。つまり、「おかしみ」を感じさせる可能性がある。これを図で示すと、以下のようになる。



2.2 「フリ」「ボケ」「ツッコミ」の概念

さて、本稿で考察するのは漫才における「ツッコミ」についてであるが、本研究の着目点である従来の漫才用語「フリ」「ボケ」「ツッコミ」[3]という概念について簡略に述べたい。これらの概念は、未だ正確に定義されていないが、効果的におかしみを伝達する過程を段階的に把握できるものであると考える。本研究では、

「フリ」＝ボケの先行部分でおかしみを効果的に伝達する表現（主に共通の条件、概念Aを設定、導出[4]）

「ボケ」＝おかしみの図を完成させる表現[5]（主に概念Bを設定、導出）

「ツッコミ」＝ボケの後続部分でおかしみを効果的に伝達する表現（おかしみの図の存在を効果的に伝達する）

と定義して、まず大まかな分類をし、考察を行った。本稿では言語的アプローチに限定して考察するので、諸表現はすなわち言語表現、言語操作と限定するものとする。

この定義にしたがえば、例1のフリは17・19松本、ボケは21松本、ツッコミは22浜田、となる。

2.3 「ツッコミ」の意味

フリ、ボケに関してはそれぞれ安部(2004)、(2005)において触れているのでここでは詳細を控えるが、ここで指摘しておきたいことは、「おかしみ」を感じさせる条件は、フリ、ボケで整っているということである。つまり、おかしみの「図」がこの両機能によって完成するため、この時点で「おかしみ」の実現に必要な最

---

3 先行研究では、金水(1992)において「ボケ」と「ツッコミ」という用語が採りあげられている。またこれらの漫才用語が市民権を得て定着しだしたのは、澤田(1977、pp126～127)によれば、コント55号が活躍した昭和40年代後半あたりからしい。本稿でこの用語を使用するのは、未だこれらに変わる学際的な用語が見当たらないためである。

4 本稿では実際の発話と、そこから読み取れる概念(発話意図)を分けて考察しているため、実際の発話が概念を設定しているものを「設定」とし、次の発話・概念を導き出す役割をしている発話を、「導出」の役割を担っているものとしている。

5 「おかしみの構造図を完成させる表現」としたのは、実際には「ボケ」そのものがおかしみを実現しているのではなく、「ボケ」によっておかしみの図が完成し、結果としておかしみが実現する、という立場からである。

低条件は提示されていると考えることができるのである[6]。にもかかわらず「ツッコミ」が存在するのはなぜだろうか。

結論からいえば、前項での用語の定義でも触れたことではあるが、「ツッコミ」はおかしみを効果的に伝達する表現、つまり「ツッコミ」の前段階で完成に至ったおかしみの図の存在を効果的に伝達する方策であると考えられる。これによって理解主体(観客)に、より確実におかしみの図を伝達したり、あるいはおかしみの増幅を狙ったりしていると思われる。したがって、「ツッコミ」は本来的にはおかしみの図の完成過程には必要のない機能でありながら、この点においてその存在理由を保持しているといっていいのではないだろうか。

「ツッコミ」の効果に関しては、金水(1992)に「会話をもとの進路に戻す役目(p76)」との指摘があるのをはじめ、観客の気持ちの代弁としての効果や観客におかしみを発見させる効果などがあることは周知のことであろう。これらの効果は理解主体(観客)の観点からみた効果[7]であるが、本稿ではそれとは別に、あくまでテキスト内での効果を考察対象とする。つまり、「ツッコミ」はおかしみの図の存在を効果的に伝達する表現であることを前提とし、図のどこを指示して「ツッコミ」を行っているのか、そしてそのことによっておかしみの図の伝達上どのような効果があるのか、ということをおかしみの図と「ツッコミ」との対応の分析を通して考察する。

3．考察

ボケ(おかしみの図を完成させる表現)の後続部分に現出するツッコミを、形態的・質的観点から分析したところ、以下に示す2系統7類型が存在した。

実際のツッコミ[8]はこれら7類型を基本として、それぞれの類型を複合させた形でツッコミが構成されることがある。

---

[6] 詳しくは安部(2004)を参照されたい。ボケ・ツッコミよりもフリ・ボケの組み合わせの方がおかしみの実現に必要な密着度の高いペアであることを指摘した。

[7] 金水(1992)に「ツッコミがはいると『ああそうか、やっぱりボケとったんや』と納得がいって、もとの状態に戻る、つまり緊張が弛緩する、安定状態になる。ここで聴衆は、笑うわけであります。」(p84)とあるように、ツッコミの効果についての観点が理解主体(観客)側にあることがわかる。

[8] ツッコミを、その機能自体を担った演者、またはその役割とする立場もあるが、実際の資料では、いわゆるボケを担った演者がツッコミをしている箇所も多々あり、本稿ではあくまでボケ、ツッコミなどは部分的な機能、という立場をとった。

また、補足ではあるが、ボケ、ツッコミと観客の「笑い」が起こっている箇所を参考までに調査したところ、観客の笑いが採取された部分はボケ・ツッコミ双方の直後にあることがわかった。このことからも、ボケだけでなくツッコミが笑いに参与していることは明白であろう。ただし、ここで「おかしみを感じる」ことと、「笑いという生理現象が生まれる」こととの時間的なズレは無視できない問題であり、この問題は観客の「笑い」を拠りどころとした理解主体寄りの諸研究においても解消されていないのが現状である。

なお、以下に示す図において、下線部は説明の当該部分、点線の楕円はツッコミによって強調されたイメージ、矢印は指された部分に対しての発話であることを表している（矢印の方向に関しては特別な意味はない）。

3.1　注意喚起するもの（情報非付加）

用例を採取し分析した結果、まずツッコミがその発話自体に内容を持っているか否か、という観点で大別できることがわかった。つまり内容をともなってボケの発話を批判しているものと、内容をともなわず理解主体に向けての注意喚起としての機能の域をでないもの、というように「情報の有無」という観点で２系統に分類した。

ここではまず、説明の便宜上後者の、実質的にはボケを指して「いま変なことをいいましたよ」という、注意喚起のマーカーとしての機能が主であるもの３類型から示す。

3.1.1　否定型：「なんでやん！」型

「おーい！」「コラー！」「なんでだよ！」「なんでやねん」「やかましい」「そんなアホな」など、直前のボケの発話を否定または非難するもので、発話自体が形式化しており、実質的には内容をあまり持たないきわめてオーソドックスな型であろう。

例２）【ツービート】《最近あった出来事を振り返って》

29 たけし：無理して大学になんか一生懸命受験勉強なんかして入っても、親を金属バットで殴ったりしてんのなんかいるでしょ。

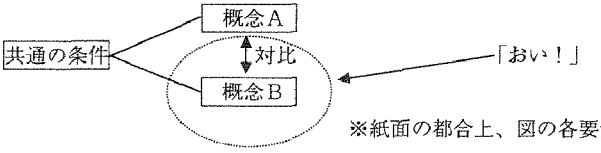
30 きよし：こないだ、ありましたね。

31 たけし：ロクなもんじゃないんですから、ああいうのは。あの王選手が非常に怒っちゃってね。

32 きよし：そりゃ怒るよ誰だって。

33 たけし：圧縮バット禁止されたのに、なんで金属バット使うんだって。

34 きよし：おい！そんなこというわけないだろ！



※紙面の都合上、図の各要素を下に別記する

共通の条件：王選手が怒った理由（もしくは金属バットを使う理由）

概念Ａ：金属バットで親を殴ってはいけない（親を殴るため）

概念Ｂ：圧縮バット禁止されたのに金属バットを使ってはいけない（圧縮バットが禁止されているため）

ツッコミ：「おい！」

この例では、34きよし「おい！」が、実質的には33たけしで提示された概念Bに対して、「いまボケました」という注意喚起のマーカーとしての機能を主に担っている。このように形式化したツッコミは、ボケを見逃さずに理解主体に注意喚起することで立ち止まらせ、概念Bに着目させる。結果、図における概念の対比を読み取らせて、図の存在を意識させる効果があろう。

このような否定型のツッコミはどのような用例をみても比較的多くみられ、漫才では非常にオーソドックスなツッコミであるといえる。

3.1.2 オウム返し型：「［　　］って！」型

これは否定型に近いが、ボケの発話を繰り返すことによって、概念Bに着目させる型である。

例3）【ダウンタウン②】《クイズをしよう、という場面で　浜田乗り気ではない》

105 松本：それでは第1問。

106 浜田：はい

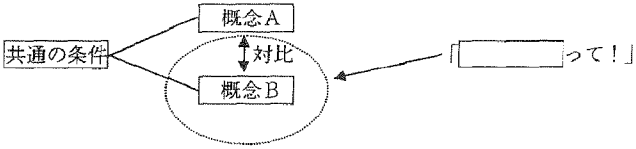
107 松本：太郎くんが、花屋さんに花を買いに行きました。さて、なんでしょう。

108 浜田：……

109 松本：カッチカッチカッチ（時計の音）

110 浜田：「カッチカッチ」あらへんがな！　どこのクイズ番組に「花屋さんに花を買いに行きました、さてなんでしょう」てなんやねん。

（松本のマネをして）「花屋さんに花を買いに行きました、さてなんでしょう、カッチカッチ」なめてんのか！



共通の条件：クイズ

概念A：答えが導きだせそうなもの（「さて、なんの花でしょう」など）

概念B：答えが導き出せそうにないもの（「さて、なんでしょう」）

ツッコミ：「カッチカッチ」あらへんがな！　「花屋さんに花を買いに行きました、さてなんでしょう」てなんやねん。「花屋さんに花を買いに行きました、さてなんでしょう、カッチカッチ」なめてんのか！

オウム返し型は、概念Bを構成する表現を明示し、反復する点でこれを否定型と区別した。ボケの発話をそのまま反復することでボケが文脈的にもつ非妥当性を強調しているといえるだろう。

3.1.3 沈黙型：「……」型

会話は、すべて相手に対する発話行為であり、聞き手はなんらかの「反応」を要求する。そのなかであえて「沈黙[9]」するという行為は、相手の発話に対する「否認」という行為をふくみをもたせつつ遂行しているといえる。したがって沈黙は、理解主体(観客)を立ち止まらせ、概念Bの存在、ひいては図の存在を意識させる効果のある表現だろう。

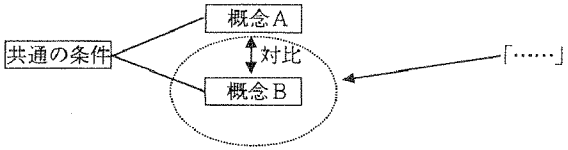
例4）【ダウンタウン②】《松本がクイズをだして、浜田に答えさせる、という状況》

207 松本：歴史の問題ということで、がんばってください

208 浜田：はい

209 松本：板垣退助は、なんでしょう。

210 浜田：……



共通の条件：歴史のクイズ　板垣退助は

概念A：答えが導きだせそうなもの（「なにをした人でしょう」など）

概念B：答えが導き出せそうにないもの（「さて、なんでしょう」）

ツッコミ：「……」

3.2 内容的に踏み込むもの(情報付加)

「注意喚起するもの」とは違い、マーカーとしての機能を担いつつも、先行する発話内容もしくは発話者に踏み込んで批判するもの。以下4類型。

3.2.1 訂正型：「それは概念Aだよ！」型

ボケによって示された概念Bと対比される概念Aを明示して、対比を明確にするのが訂正型である。結果的には概念Bを否定しており、対比が浮き彫りになるわけだから、図を意識させる効果もあるだろう。

例5）【ダウンタウン①】

17 松本：(電話)「お前とこの息子な、オレとこで預かってんねん」

18 浜田：(電話)「えー」

---

9 ここでいう沈黙「……」は、実際の公演を計測し、1秒以上の間があったもの。

19 松本:「預かってんねん！」

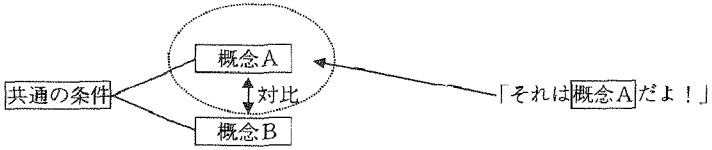
20 浜田:「いや！」

21 松本:「驚くことあらへん、あんたが朝預けてっ行ってん」(電話をきるしぐさ)

22 浜田:なにを言うてんねん！

23 松本:……

24 浜田:誘拐犯ならナンボとるて言わな。な？　預けていくわけあらへん、近所のおばはんやないんやから。ナンボ欲しいねん！



共通の条件：息子を預かった理由

概念A：金品要求のため誘拐した

概念B：朝預かった「あんたが朝預けて行ってん」

ツッコミ：「誘拐犯ならナンボとるて言わな」

3.2.2　意味指摘型：「それじゃ文脈的に新しい意味！」型

ボケの発話を肯定したときに生まれる文脈的に新しい意味に触れる型。「もし概念Bを認めるとすると、～という意味になる」の形に変換できる。

例6）【横山やすし・西川きよし】

《舞台となっている国立劇場に中卒のきよしが出演している、という話題》

51 やすし:それが中卒でてまうなんて！

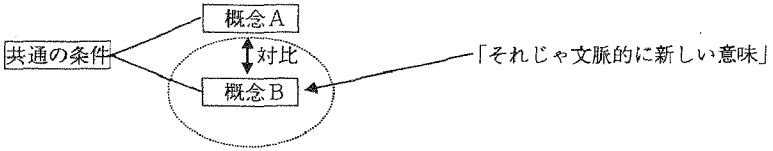
52 きよし:そない怒らんでも

53 やすし:アホか

54 きよし:じゃ君どこ出てるの

55 やすし:義務教育やないかい！

56 きよし:一緒やろ！　どこの学校出てるのかな思たら



共通の条件：どこの学校出身か

概念A：大学もしくは中卒以上

概念B：中卒「義務教育やないかい」

ツッコミ：「一緒やろ！」

56 きよしは「もし君が義務教育だとすると、(僕と) 一緒だということになる」と変換可能で、文脈的に生まれる新しい意味に触れている。

このように、意味指摘型は、概念Bの文脈を膨らませることによって、概念Aといかに離れているかを説明し、対比を明確にする効果があろう。

3.2.3 比喩型：「[　　]じゃないんだから」型

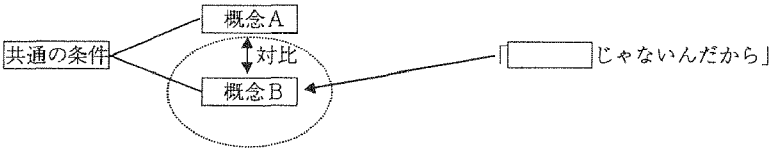
表現意図としては、意味指摘型とおなじくボケの発話を肯定したときに生まれる文脈的に新しい意味に触れているが、「もし概念Bを認めたとすると、まるで～みたいだ」の形に変換できるように、表現の根本に比喩の原理が働いているので意味指摘型と区別し、これを比喩型とした。

先に用例した例5の24浜田「近所のおばはんやないんやから」も、「私があなたに息子を朝預けていったとしたら、私はまるで近所のおばはんみたいだ」と同義であるため、比喩型と分類できる。

例7)【西川のりお・上方よしお】《よしおの首を回そうとする》

51 のりお：そんなお前もう、中身、アホ！

52 よしお：回るか！　そんなもん。回してみい、アホ。ほんまに、回してみなはれそんなもん。わしゃ地球儀か。サンケイ・スポーツニュース[10]やないねんから。



共通の条件：首の回しかた

概念A：現実的に回る角度

概念B：一回転するほど大きく回す

ツッコミ：「わしゃ地球儀か。サンケイ・スポーツニュースやないねんから。」

この例も、「もしそんなに大きく首(頭部)が回ったら、私の頭部はまるで地球儀のようだ。そして回る地球儀のようだとしたら、それはまたまるでサンケイ・スポーツニュース(のイメージ映像)のようだ」と変換可能で、これも比喩型である[11]。

---

10 当時(1981年ごろ)のニュース番組のイメージ映像が回る地球の映像であったと推測される。

11 この種のツッコミには見立ての発想が働いているので、図の対比構造の強調とは別に、ツッコミ自体にもおかしみを感じさせる要素があり、おかしみの増幅に繋がり、ツッコミのあとにも観客の笑いが起こる場合が多い。これは意味指摘型にもいえることで、ボケを肯定したときの、どの部分を新しい意味として抽出するか、でおかしみの増幅に寄与するか否かが決定する。いずれの型もボケによって生まれた新しい文脈に則ったツッコミであるのが共通点であるが、この種のツッコミについては別稿で触れることとする。

3.2.4　否定的感想型

否定型と機能は近接しているが、ツッコミの発話自体が形式化しておらず、注意喚起のマーカーとしての機能をもちながら、意味的に踏み込んだ否定的な感想を述べたり、発話内容ではなく発話者(会話の相手)を非難することもあるので、これを否定型と区別した。

2.3 でも触れたツッコミの理解主体の観点からみた効果のひとつ、すなわち観客の気持ちの代弁としての常識的批判がこの種のツッコミであろう。

例2の34きよし「そんなこというわけないだろ！」は否定型と否定的感想型との境界線上にあるようなものだが、例8の33田中は否定的感想型の典型であろう。

例8)【爆笑問題】

《ドラマのプロデューサーが、女子高生を騙して婦女暴行で捕まった話》

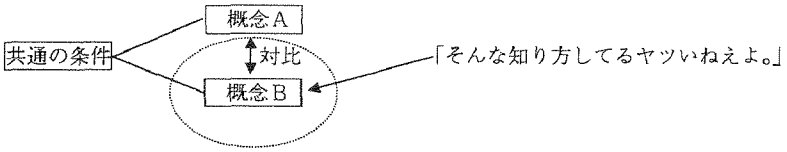
29 田中：相当有能なプロデューサーだったらしいけどね、中森明菜とか安田成美が競演して話題になった『素顔のままで』をヒットさせたりして。

30 太田：きっと、そのへんの有名人の名前を出して、女子高生を口説いたんだろうな。「君、中森明菜って知ってる？」なんて言って。

31 田中：まあね。

32 太田：女子高生なんか有名人の名前に弱いから、そんなこと言ったら大騒ぎして「知ってるー！明穂のお姉さんでしょ！」なんて。

33 田中：そんな知り方してるヤツはいねえよ。



共通の条件：中森明菜(の知り方)

概念A：歌手、元アイドルなど

概念B：中森秋穂の姉

ツッコミ：「そんな知り方してるヤツいねえよ。」

以上がツッコミの7類型である。実際の口演では、ひとつのツッコミの部分に、これら複数の型がまとまって現出することもある。また、たとえば「ノリツッコミ[12]」と称されるものも、意味指摘型と否定的感想型などの複合形だと考えるこ

---

12 金水(1992)によれば、「ノリツッコミ」は「ボケ役がボケたときに、ツッコミ役はしばらくの間、つっこまずに同じようにボケ続ける。そしてある時点でふと我に返って「じゃかあしい」というふうにツッコミをいれると、これがまあノリツッコミ」(pp88～89)と説明されており、ツッコミ役の「『一人時間差攻撃』というべき、高度な技」と位置づけている。

とができるだろう。

3.3 ツッコミの効果「対象化」

これまでツッコミの2系統7類型を示してきたわけであるが、これらがおかしみの図の伝達上もたらす効果は、図のある部分を指し示したり全体を意識させたりと、その方策はさまざまであるけれども、総じていえば、おかしみの図(対象)の「対象化」にあるといえるだろう。つまり、ツッコミはおかしみの対象を対象化し、「対象」を「対象」たらしめることによって、より確実におかしみを伝達する言語操作なのである。

例9)【ツービート】《くだらないテレビ番組が多い、という話》

117 たけし:『遠山の金さん』だってそうですよ。

118 きよし:あれも人気あるんですよ、あの番組。

119 たけし:なんかつーと、事件の現場に金さんがいてね、その現場で現行犯で捕まえればいのにわざわざ白州みたいなところで、「金さんとかいう遊び人は知らなかったか」「ええ」なんて、たいてい顔みりゃわかるのに、「知りません」「じゃあこれでどうだ!」(肩の入れ墨を見せる仕草)。顔見てわかんねえのが、入れ墨でわかるか、バカヤロー!

上の例の下線部も、ツッコミを、発話者がおかしみの図を読み取った際の、批判的意見表明とするならば、ツッコミであろう。このように、必ずしも先行部分にボケがなくても、ツッコミをする発話者の言及の先が、会話の相手の発話内容や相手自身ではなく、第三者(社会や常識を含む)に向いたときでも、普段気づかないそこに内包された「おかしみの図」を抽出、対象化することができれば、笑いに結実させることができるのもツッコミの特徴であるように思われる。

3.4 ツッコミの汎用性

本稿は漫才におけるツッコミについての考察が主眼であるが、最後に今回の考察によって得られたツッコミの機能と効果、すなわち「対象化」が、漫才以外のテキストにもみられる例を挙げてその汎用性を示したい。

例10)【桂文珍】

《自分は農家の長男だったので、落語家になるのを両親に反対された、という話》

そこで、(黒豆が)とれまして、農家を営んでおりまして、農家でございますな、そこの長男でございます、長男なんですが、ちょっと痔なんでございます。そんな細かいギャグはよいのでございまして、……

例11)【さくらももこ】

《少女時代に、理想の男を勝手に頭のなかでつくりあげて空想していた》

私の空想パターンはだいたい決まっていた。美化された私は家柄まですり変え、良家の娘という設定になっている。私はおしゃれをして黄昏時の窓辺で彼を待っていると、まもなく彼はランボルギーニだかフェラーリだか知らないが、とにかく幻のスーパーカーに乗って私を迎えに来るのだ。

スーパーカーから降りた彼の手にはバラの花束が用意されており、それが私にプレゼントされるのだ。

その後早速ドライブに行く。なんたって幻のスーパーカーに乗っているから、世間の人々が「おー、スゲエ車乗ってるな」とか「まあ、乗ってる男の子ステキ。でも彼女もカワイイからくやしいけどお似合いね」などと噂しているのが聞こえる。この噂だって、自分で考えているんだから空しいのだが、夢みる少女に空しさなんて皆無である。

例 10 は否定的感想型、例 11 は上 2 つが意味指摘型、下のものが否定的感想型であろう。このように、漫才でなくとも、「ツッコミ」的な言語操作は、他のテキストにおいても「おかしみ」実現に効果を発揮しているようである。

4．今後の課題

以上、漫才におけるツッコミについて考察し、2 系統 7 類型を示し、その「対象化」という効果を指摘してきたわけだが、今後はこの分類を一篇の漫才ごとに援用し、各コンビがどのくらいの割合でどのようなツッコミをしているのか、ということを数値化し、いわゆる「芸風」をはかるうえでの尺度のひとつとしたい。また、おかしみの対象の対象化は、ジャンルごとにその対象化の方法が異なっているように思われ、今後は漫才以外にも研究対象を求めていく。

また、今回は紙面の都合上、ツッコミをするタイミング(先行発話との時間的な間隔)や、ツッコミの語気・語調の類型化とボケとの対応関係について触れることができなかったので、これは別稿で触れることとしたい。

＜資料＞

【ダウンタウン①】「誘拐」　【ダウンタウン②】「クイズ・明日からフィリピン人」
(1996)『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで　傑作漫才全集 1』VAP（ビデオ）
【ツービート】白夜ムック No.51(1999)「笑芸人」白夜書房　所収
【爆笑問題】「970319「東電 OL 殺害」「フジテレビ・プロデューサー婦女暴行の巻」
爆笑問題(2000)『爆笑問題の日本原論 2000』宝島社
【横山やすし・西川きよし】(1996)『やすきよ漫才傑作選②』コロンビア（CD）
【西川のりお・上方よしお】花王名人劇場編(1981)『漫才・マンザイ・MANZAI』講談社
【桂文珍】「老婆の休日」　(2001)『朝日名人会ライヴシリーズ 7　桂文珍 5「老婆の休日」「ヘイ！マスター」』ソニーレコード(C D)
【さくらももこ】「乙女のバカ心」　さくらももこ(1991)『もものかんずめ』集英社

＜参考文献＞

秋田實(1972)『笑いの創造—日常生活における笑いと漫才の表現』日本実業出版社

安部達雄(2004)「笑いとことば　—漫才における「フリ」のレトリック—」『文体論研究』第 50 号　日本文体論学会

——(2005)「漫才における「ボケ」の質的特徴と形態的特徴」『早稲田日本語研究』13　早稲田大学日本語学会　印刷中

石黒圭(2001)「予測と笑い　ー予測をはずすレトリックー」『表現研究』73　表現学会

木村寛子(2003)「おかしみを生む言語表現とその理解　—漫才を資料として—」『早稲田日本語研究』11　早稲田大学日本語学会

金水敏(1992)「ボケとツッコミ—語用論による漫才の分析—」『上方の文化　上方ことばの今昔』和泉書院

金水敏・今仁生美(2000)『意味と文脈　現代言語学入門 4』岩波書店

ケストラー　A(1983)『ホロン革命』(田中三彦・吉岡佳子訳：原著 1978) 工作舎

小泉保(1997)『ジョークとレトリックの語用論』大修館書店

澤田隆治(1977)『私説コメディアン史』白水社

ショーペンハウエル　A(1972)『ショーペンハウアー全集 2　意志と表象としての世界正編 1』(斎藤忍随ほか訳：原著 1966) 白水社

関綾子(1999)「おかしみの構造に関する一試論　ー漫才を資料としてー」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第 45 輯

——(2002)「おかしみの生成における言語操作の構造 ー漫才を資料としてー」『早稲田日本語研究』10　早稲田大学国語学会

——(2003a)「おかしみ生成における誤解誘導の言語操作　ー漫才を資料として—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第 48 輯

——(2003b)「おかしみ生成における『悪態』のレトリック　ー漫才を資料として—」『文体論研究』第 49 号　日本文体論学会

中村明(2002)『文章読本 笑いのセンス』岩波書店

中村平治(1996)「笑いの技巧」『福岡大学人文論集』28(1)　福岡大学総合研究所

野村雅昭(2000)『落語の話術』平凡社

橋内武(1983)「漫才という言語行動」『ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ清心女子大学紀要 国語・国文学編』7-1

付記：本稿は 2004 年 7 月 3 日、早稲田大学で行われた早稲田大学日本語学会における口頭発表をもとに加筆訂正したものである。発表のさいにご指導くださった先生方に心より感謝申しあげます。

（あべ　たつお／文学研究科日本語日本文化専攻博士後期課程 2 年）